



2018年12月10日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 松島晃子

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



「YMCAの願いを実現するために」～輪を拓けよう～

毎年、全国のYMCAで取り組みをしている国際協力募金。仙台では、国際地域協力募金という名前で、YMCA会員・関係者・市民の皆様にご協力を願っています。皆様から集められた国際・地域協力募金は2017年度は以下の支援に活用させていただきました。

- ①日本YMCAを通じた世界各国への支援
- ③子どもたちを中心とした地域支援協力
- ⑤東日本大震災支援
- ②タイ農村ワークキャンププロジェクト支援
- ④ボランティア養成

2018年度も支援先である、タイ農村ワークキャンプが2019年2月～3月で実施予定です。私は、2017年度のタイ農村ワークキャンプへ団長として9名の大学生と共に参加してきました。彼らとタイで過ごした約10日間には、YMCAの願いがタイ農村ワークキャンプを通して学び、行動していきました。

特に、タイという異国の地での活動で、世界を見つめることができました。タイの人身売買問題に日本が関与している現実を知ることができました。その地域の人たちにとって、愛する人を守るために必要な道路を、参加者や村の人たちと協力して作ることができました。そして、参加者は知らないもの同士、この期間で相手のことを思いやり、相手のために行動することを学び、実践してきました。

タイ農村ワークキャンプへ支援していただいている国際地域協力募金は、タイのYMCAパヤオセンターで暮らす子どもたちや、働いている職員へも間接的に支援されています。



より多くの支援を

—国際・地域協力募金へ
ご協力のお願い—

日本では子ども支援金として、児童養護施設の子どもたちをキャンプに招待したりプールでのレクリエーションのため・東日本大震災関連支援のため・日本YMCA同盟を通して紛争や災害で苦しんでいる人々を支援するために用いられます。国際地域協力募金は、活用されるものが身近ではないため、募金の使途が見えにくい性質があります。しかし募金活動の趣旨に、より多くの方がご理解、ご賛同、ご協力くださり、少しでも多くの募金が集まれば、必要としている方に今よりも多くの支援ができます。その支援が様々な地域や人たちのために活用され、それを通じて私たちは繋がることのできるのです。その結果として、「YMCAの願い」が達成できるように、皆様、あるいはお知り合いの方々からの国際地域協力募金へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(健康教育事業部/黒田 敦)

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拓けます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。



YMCAは、YMCAにつながる人々が様々な活動を通して、「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」「家族、地域のひとりとして責任があること」「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」「すこやかな心とからだを育むこと」を学び・行動していくことを願い、すべての場面で「思いやり」「誠実さ」「責任感」「尊敬心」(キャラクターディベロップメント)を大切にしています。

YMCA 西中田保育園

—子どもたちが自身が気づき、育つこと—

保育園は、利用してくださる園児や保護者の方々が、自然に「YMCAの願い」や「キャラクターディベロップメント」を感じることができるよう努めています。YMCA西中田保育園の子どもたちは、園庭や近隣の公園での虫捕りが大好きです。その中で子ども達は、命の大切さを学びます。捕っては逃がし、捕っては逃がしの毎日が続きます。幼児部になると知恵と経験が備わり、捕獲し育てることを覚えます。「〇〇さん、カマキリさんの食べ物は何？何が好きなの？」という、虫に対して愛情が感じられる問いが繰り返されます。「カマキリさんのご飯は虫だよ。」の答えを聞くなり、またしても他の虫探しが始まり、捕獲し(ほとんどがアリさんです)、カマキリに食事を与えようとします。そんな中、一人の子から「アリさん可哀そう。」との声が発せられます。エサとなる虫にも小さな『いのち』があることに、ハッと気づいた成長の瞬間です。そして、子どもの心が動いたその時に、「そうだね」と側で共感することが私たち大人の役割だと感じます。



2月のピンクシャツデーでは、「みんな違って、みんな良い」ということを学びます。「ピンクシャツデーって何？」というところから始まり、その意味を普段の友だちとの関わりの中で経験します。「〇〇ちゃんと一緒にいてくれて嬉しかった。」「おもちゃを貸してくれてやさしかった。」など自分がされて、嬉しかったことを実感します。そして、それは、今度は自分が誰かのために何かをしてあげようという気持ちを持たせてくれます。文字を書けるようになってきた年長組の反転文字も含めてのメッセージポスター作りは、「〇〇ちゃん、だいすき」「〇〇ちゃん、いつもあそんでくれてありがとう」などいつもは言えない思いを文字で表現していきます。関わる大人が教え込むより、子どもたち同士の中で気づき育つことが最も大切です。そんな体験ができ、育ちが守られ、時を穏やかに、たおやかに過ごせるように、心がけています。

また、YMCA保育園は「布オムツの使用」をすすめています。保護者の方々には、「子育てにおいて、できる苦労は惜しまずしましょう。仕事でも、苦労しやりぬいた仕事は、充実感や達成感を味わえます。子育ても同様です。いや、子育ては想像以上の成果を味わえます。そして、何にも勝る思い出となります。何より子どもたちが気持ちよく過ごせます。」と説明させていただいています。保育園のオムツ交換は濡れた都度ごとに子ども一人ひとりと1対1で関わる大切な時間と捉えています。一人ひとりに丁寧に語りかけスキンシップをとる、密接な時間が長ければ長いほど信頼関係はより深まります。人を信じる穏やかな心が育ち、自分が愛されている存在なんだということを伝えています。

(西中田保育園 園長/高松成士)

YMCA 南大野田保育園

「神様とともに」

—キリスト教保育を通して—

YMCAの保育園では、キリスト教保育を通して『子どもたち一人ひとりの命が、神さまから託されたかけがえのないもの』『神さまによって生かされていることを知り、何事にも感謝する心と愛される喜びを持って生きること』を大切に、子どもたちと生活をしています。多くの子どもたちは、保育園に入園して初めてイエス様の存在と出会います。いつも近くにおいて私たちのことを見守り、愛してくださる。そのことを礼拝やお祈りを通して知っていきます。1日の生活の中でお祈りをする場面は何度かあります。そのひとは子どもたちにとっても神さまとの大切な語り合いの場になるのです。小さい子どもたちも礼拝の時には、前奏が聞こえてくると自然と手を合わせピアノの音を聴いています。その姿は心が穏やかになる瞬間です。そして、この時期、キリスト教ではクリスマスの4週間前からアドベント(待降節)に入り、イエス・キリストの誕生を待ち望む特別な期間として過ごします。大きなリース、聖家族やアドベントクランツが飾られ、『クリスマスが近づいている』ことを感じる瞬間です。保育園の中も飾り付けを少しずつ増やし、部屋の掃除をしてクリスマスを迎える雰囲気を整えていきます。『クリスマスの本当の意味』について子どもたちと考え、クリスマスはイエスさまがお生まれになった日で、私たち一人ひとりのためにこの世に来てくださったということを知り、喜んでクリスマスを迎えられるように心の準備もしていきます。今年度は乳児部(0、1、2歳児)でもアドベント礼拝を守り、一緒にクリスマスのお話を聞き讃美歌を歌っています。ろうそくの灯が1本ずつ増えていくと、子どもたちも目を輝かせろうそくをみつめています。今年も世界中の人たちが暖かいクリスマスを迎えられることを願いながら過ごしています。



(南大野田保育園 主任保育士/岩根久仁恵)

加茂保育園では、年長児が加茂はげみホームのみなさんと交流を行っています。加茂はげみホームは、障がいのある方々が支援を受けながら日常生活や創作活動を行う施設です。春の花の日礼拝・秋の収穫感謝礼拝では、子どもたちが家庭から持ち寄った花や果物を届けました。「喜んでくれるかな?」「渡すのドキドキする」と、小さな胸に大きな期待と少しの不安を抱えながら手渡した子どもたちに、はげみホームの皆さんが「お返しにどうぞ」と手作りの折り紙のコマをプレゼントしてくれました。カラフルなコマは子どもたちに大人気。遊びながら「こんなにいっぱい作るのは大変だね」「コマのお返しをしたい」との会話が聞こえ、それでは!とどんなお返しをしたら喜んでくれるかを担任と一緒に考えながら、コツコツと準備を始めました。「きっと折り紙が好きだから、折り紙を貼ったお手紙にしよう」「目が見えない人もいるから、歌を歌うと嬉しい気持ちになると思う」など、相手の喜ぶ顔を思い浮かべながら試行錯誤する姿に成長を感じる時間でした。そんな中迎えた11月26日、加茂はげみホームを訪問しました。コマのお返しに手紙と歌を贈った子どもたちに、なんと加茂はげみホームの皆さんからも歌のプレゼントがあり、「お返しのお返しのお返しの・・・あれ?お返しだけで分からなくなっちゃったね」という子どものつぶやきもあり、ほんわかした温かいひとときとなりました。



何気ない日常の出来事ではありますが、地域の方々に「温かい気持ち」を手渡していただき、その嬉しさを感じた子どもたちが「気持ち」をお返しする、そんな積み重ねができる環境が子どもたちにとって「しあわせ・平和」であると心から感じます。目には見えにくい「なんだかほんわかする気持ち」のやりとりが、相手を想う気持ちとなり、その積み重ねが人ととのつながりを育みます。社会とのつながりや見守りは、子どもたちには必要不可欠です。たくさんつながりに感謝しながら、YMCAが子どもたちと社会をつなぐ土台となれるようこれからも努めていきます。

(加茂保育園 主任保育士/関川美紀)

YMCAと私

「支えてくださった方々に感謝」



仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校
国際おもてなし科/担任
小林 尚美

11月23日～25日、第20回日本YMCA大会に参加いたしました。この大会は、2年に1度開催され、全国のYMCAに関わる様々な立場の方々が交流し、研修・情報交換を行う場であり、同時にYMCAの使命や課題を確認する機会でもあります。今回は「すべてのYがつながる日」とのテーマのもと、全国34のYMCA・ワイズメンズクラブ・大学YMCAから約250名の会員が集いました。

その中で、日本YMCA同盟の表彰があり、わたくしも勤続25年の表彰をいただきました。正直に申し上げて「あっ」という間に25年を迎えてしまいました。振り返りますと、その間には、思いがけず得意でない分野でのお役目がやってくることもありました。私自身は、試行錯誤を繰り返して、てくてこまいしながら、何とかそのお役目を果たそうとするのですが、必ずしも良い結果ばかりではありませんでした。多くの方々のお支えによって私の小さなご奉仕が果たされていったのだと思います。25年の表彰は、支えてくださった方々への感謝と思います。

入職以来、感じていることは、YMCAは「人の成長が間近に感じられる」ことです。子どもも、大人も、心も、身体も、小さなことから大きなことまで。人は、日々成長しています。それをじかに感じることは、YMCAの素晴らしいところだと思います。そして、自分は、それを、静かに導いたり見守ったりする存在でありたいと願います。

最後に……。YMCA大会のグループ討論のさいに、「もし、生まれ変わったら何になりたい?」という質問をいただきました。少し考えましたが、「やはり、YMCAとかかわる何かをしたいと思います。」と答えました。

ボランティア ぼらんていあ

旭ヶ丘児童館
社会人ボランティアリーダー
山口 斉 さん



ーそんなに長いことボランティアを続けていたのかー初めて会った子どもたちは、今や最低でも中学3年生。みんな元気になっているかな。

本心では、社会人になったとき、ボランティアは辞めようと思っていました。時間的な余裕もなくなりますし、いずれは職員の皆様も変わっていきます。そんな中で、今まで築き上げた子どもたちとの関係が薄くなってしまふのが怖かった。児童館という限られた場所、その限られた時間の中で子供たちの想いに応える自信がなかった。いえ、正直な最たる理由は、自分の居場所が消えてしまう恐怖心があったからでした。しかし、これは私の思い過ごしでした。月に1、2回しか行けなくても、その瞬間は全身全霊で子どもたちと接する。たったそれだけで、子どもたちは「次はいつくるの?」と聞いてくれます。私に来ることを楽しみにしてくれる子どもがいます。そして、私を受け入れてくださる職員の方々もいます。誰だって大切な人や大好きな人と毎日一緒にいられば、そんな風に思うでしょう。ですが、それが出来ないとき、限られた時間だからこそ、その時間を大切に、いかにその短い時間の中でよりよい時間を過ごすことができるか、そう考えることもできます。私にとって、子どもという存在は希望そのものであり宝物です。それほどの存在なのです。保護者の方々には、このような機会と希望を与えてくださり、心より感謝申し上げます。

そして、子どもたちへ、君たちが誰にも言えないほどの悩みを抱えたとき、必ず信頼できる大人に相談してください。もちろん、ひとしリーダーでもいいですよ。そんな時は、一緒にボランティアでもしてみましょ。きっと、君たちの居場所ができます。私はいつだって君たち、子どもたちのそばに居られる大人であり続けます。

国際・地域協力募金 ー感謝とお知らせー

11月23日(祝)、市内4カ所で街頭募金を実施いたしました。
当日は、晴れてはいたもののとても気温の低い中で募金の呼びかけとなりました。一緒に呼びかけを行ってくださった皆様、募金していただいた皆様に心より感謝申し上げます。
また、次回は12月23日(祝)にも街頭募金を実施いたします。国際・地域協力募金運動を地域の方に直接お伝えできる数少ない機会です。皆様のご参加・ご協力をお待ちしております!

< 次回の予定 >

日時 12月23日(祝)
13:00~14:30
場所 仙台三越近く(一番町商店街入口)
フォーラス前、グッチ前、藤崎前

～11月23日(祝)街頭募金報告～

☆三越前 30,680円
☆フォーラス前 25,310円
☆グッチ前 29,874円
☆藤崎前 10,025円
合計 95,889円

★ 第47回仙台YMCAクリスマス ★

11月号でお知らせいたしましたとおり、去る12月1日(土)の18時より、第47回仙台YMCAクリスマスが開催されました。在仙留学生と市民との交流の機会となることを目的に、実行委員会を中心に話し合い・準備を進め、無事に会を終えることができました。当日、足を運んでくださった皆様、準備等をお手伝いいただきました皆様、また、ご協賛くださった皆様、ありがとうございました。心より、御礼申し上げます。詳細については次号でお伝えいたします。



参加者 198名(うち、留学生39名)
ボランティア 78名

皆様のお支えに
心より感謝申し上げます

2018年11月1日～11月30日

- ◆ 一般会員
維持会員
A会員/10,000円, B会員/20,000円
C会員/30,000円
A会員
石川千賀子
阿部松男
稲井慶子
- ◆ サポート会員
協力会員
A会員/1,000円, B会員/3,000円
A会員
関口いずみ
B会員
神原雅子

以上、敬称略

一般会員・サポート会員を随時募集中です。
ぜひ会員として仙台YMCAの活動をお支えください

お問い合わせ: 本部事務局
TEL: 022-222-7634
FAX: 022-222-2952

Column

仙台富沢キリスト協会
阿部 頌栄 牧師

ーなぜ教会ではクリスマスを喜ぶのでしょうかー

私の父は熱心なクリスチャンでした。それに対してわたしは、教会のことは知ってはいますが、興味もなく(むしろ嫌いなくらいで)成長していきました。さて、そんな私は寮のある高校へと進学することになりました。そんな私に父が入寮祝いとして聖書を渡してきたのでした。キリスト教系の学校で学ばれた方で聖書を入学祝いとしてもらった方はどうされるでしょう。さすがに捨てるはしませんが、大抵の方と同じくそのまま本棚に入れて「積ん読」になったのでした。そして聖書の存在などすっかり忘れて毎日を過ごしていました。ですがこれも青春の気まぐれなのかもしれません。ある時、どうしようもなく暇な時、つい聖書を手に取ってしまったのです。2、3日読んで、当然途中で飽きて読破はできませんでした。内容も何が書いてあるかさっぱりわからない、むしろ納得できないことばかりでした。でも、読む中でひとつだけ心に残った言葉がありました。それはイエスの物語の締めくくりの言葉でした。



「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)

キリスト教や宗教が、悪いこと、歴史の失敗を重ねていることはもちろん知っていました。それでもこの本はこのイエスの言葉を、この言葉に表れている気持ちを伝えるために書かれたのか。聖書にはいろいろなことが書いてあります。でも実は、あなたがどんなに苦しい時でも、一緒にいるから。だから一緒に生きよう。そんなことを聖書を書いた人は少なくとも真剣に語ろうとしている。そんなことが「腑に落ち」たのです。

実はこの言葉は聖書でもう一か所、大切な箇所に記されています。それはイエスの物語の冒頭、クリスマス物語のところでは。

「見よ、乙女が身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。

この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」(マタイ1:23)

「一緒にいる」という約束の言葉でイエスの物語が始められ、閉じられています。あなたが嬉しいときも苦しいときも寂しいときも、イエスさまが「一緒にいる」と約束しているのを「あなた」に伝えたい。それが聖書の言いたいことなんだ。そんなメッセージが強く込められているとわたしは思います。そしてこのことがクリスマスを教会で喜ぶ意味なのです。イエスがこの言葉を実現するために世に来たことを祝うことがクリスマスなのですから!皆さんのクリスマスにも、わたしたちを支え、共に生きるためにイエスさまが「一緒にいてくださる」喜びがありますように。

